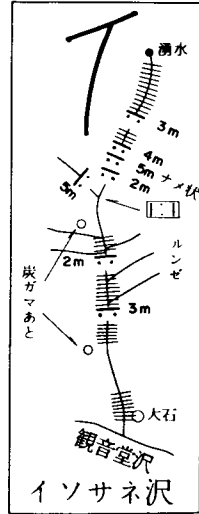


ている。拾い集めたら、五分ほどで八キロもとれた。おかげでザックはぐつと重くなる。

このあとナメの途中で小滝が二つ出てくるが、いずれも何なく下る。快適な下りだ。気持良くナメを下って、先ほど遡っていった二俣に着く。



今日の沢登りはこれでおしまい。あとはサルナシやマタタビを探り

も多く、水の流れも速い。こんな時には、いつも簡単に通過してしまうナメが意外と通過困難な場所になっている。三〇分程かかってイソサネ沢出合に到着した。

つつ、ゆっくりと下る。
〔タイム〕 下降開始(一一:五〇)↓
下降終了(一二:四五)

(記: 三)

イソサネ沢

一九八三年八月二〇日

沢の大きさ、規模からいってあまり期待はもてないが、県境になっていくということで、なぜか気になっていたイソサネ沢を目指して、いつものように戸上向の空地に車を置いて

て出発。

一時間程歩いてから、クソハナ沢を下降して観音堂沢本流に降り立つ。今日の観音堂沢は、台風五号による大雨の影響がまだ残っていて、水量

一〇時出合発。すぐV字に切れこんだ沢筋となり、ナメとなる。左右からは何本ものルンゼが合流してくる。やがて二俣。右俣に入る。小滝がかかり、ナメも急峻となってきた。やがて源流。水源は冷たい清水であった。

追記 イソサネ沢に入るため踏跡をたどっている途中、スクラバシ沢のあたりでニホンザルの群れに出会った。私の視野に入ってきたのは二頭のみであったが、鳴き声や物音の具合からいって相当数かかなりの範囲に散らばっていたようだ。茂庭にはかなりのサルが住んでいる。

「タイム」 出合(一〇:〇〇) ↓ 遊行

終了(二〇:二五)

デトサネ沢

一九八三年八月二〇日

七七八計独標から少し下るとデトサネ沢の源頭であった。一〇時五五分、沢の下降を開始。

デトサネ沢の方は概して平凡。ナメが断続的にでてくるだけで、滝と

いえるようなものもなく、観音堂沢本流に出てしまった。わずか三〇分の下りであった。(記・西 和文)

「タイム」 下降開始(二〇:四五) ↓
観音堂沢本流(二二:二〇)

クロノ沢

一九八二年一〇月三日

クソハナ沢を下降して本流に出る。クソハナ沢は滝の連続であった。最後に六計滝の左岸を捲いて本流に降

り立つ。滝とナメの連続する本流を少し遡るとクロノ沢出合。今日の目的はこの沢だ。

倒木を越え、快適にナメを遡る。やがて二計の小滝。直登する。この上もナメが続く。

小滝二つを越えてゆくと、水量は少しいが、比較的大きい感じの小沢が合流する。

まもなく八計のナメ滝。左側を直登。和泉さんがスリッパして、五計程滑り台のように滑ってから止まる。すかさず脇にどいて見殺しにする。少しすりむいた程度。油断をしているところということもある。もっとも、ここはわざと滑ってみたい気さえ起しかねないような所である。

すぐ上の小滝は何なくパスする。右岸から水量の少ない小沢が合流した所で、出合から続いていたナメも終わる。

沢が大きく左に曲がり、しばらくゆくと、まず右岸、続いて左岸にガ